



👁️👁️ みどころ

オーストラリアの観光地で起こった史上最悪の悲劇とは？1996年4月28日、オーストラリア・タスマニア島での無差別銃乱射事件はなぜ起きたの？

チラシには、「彼は如何にして無差別殺人を最終手段に選んだのか。」と書かれている。まさにそれを、第74回カンヌ国際映画祭で主演男優賞を受賞したケイレブ・ランドリー・ジョーンズの恐るべき怪演でタップリと！

“銃社会アメリカ”の問題点は前から知っていたが、オーストラリアもこんなだったとは！

— * — * — * — * — * — * — * — * — * — * — *

■□■同じ主演男優賞でもカンヌのそれとは大違い！■□■

第94回アカデミー賞の主演男優賞は『ドリームプラン』（21年）のウィル・スミスが受賞したが、第74回カンヌ国際映画祭で主演男優賞を受賞したのは本作でほぼ全編でずっぱりで、“ニトラム”というあだ名で呼ばれている青年マーティンを演じたケイレブ・ランドリー・ジョーンズ！

一方は、あくまで前向きで明るく、そして「ドリームプラン」の立案者兼実践者として大成功を収めたアメリカンドリーム型のオヤジ、他方は、あくまで内向きで暗く、そして病的な孤独感の中、とんでもない大事件を引き起こしてしまう若者だ。“ニトラム”とはマーティンの逆さ読みだが、“間抜け”の意味があるらしい。そのため、本人はそんなあだ名で呼ばれることを極端に嫌っていたが、彼に対する世間の冷たさは・・・？

そう考えると、同じ主演男優賞でもアカデミー賞とカンヌでは大違い！

■□■“未熟”はいいが、この若者の“ニトラム”さは？■□■

学生運動に明け暮れていた私の1967年～69年の大学時代、樺美智子の『人しれず

微笑まん』に続いて、高野悦子の『二十歳の原点』が必読書になっていた。そこでは、「独りであること、未熟であること、これが私の二十歳の原点である。」と書かれていた。そんな彼女は、実際には立命館大学の超優秀な女子大生だったが、1969年に、山陰本線二条駅―花園駅間で上り貨物列車に飛び込み、自殺してしまった。

他方、本作のマーティンは、社会から疎外され差別されながらも、“普通の若者”として人生を謳歌してほしいと願う両親の下で、大きな問題を起こすことなく日常生活を送っていた。しかし、サーフィンのボードが欲しいとねだる彼の姿はどこかへん。そんな彼のサーフィンを楽しむ若者たち、恋人たちを見る目は・・・？

■□■銃乱射事件がテーマだが、その実況中継は？■□■

『ウトヤ島、7月22日』（18年）（『シネマ43』未掲載）はその全編が銃乱射事件の実況中継で貫かれていた。また、2003年のカンヌ国際映画祭でパルムドール賞と監督賞をW受賞した『エレファント』（03年）（『シネマ4』221頁）も、前半は銃乱射事件の犯人となった2人の高校生の日常生活を淡々と描いていたが、後半は、銃乱射シーンのオンパレードになっていた。しかし、1996年4月28日にオーストラリアのタスマニア島で起きた無差別銃乱射事件をテーマにした本作では、その描写は如何に？

そう思いながら観ていたが、実は本作は全編マーティンが孤独を突き詰めていくストーリーのみで進行していくので、それに注目！ちなみに本作は冒頭在花火遊びで怪我をした子供時代のマーティンが登場する。普通はそこで「反省しています。二度とやりません。」となるものだが、さてマーティンの答えは・・・？

■□■中年女性ヘレンとの出会いの是非は？■□■

サーフィン・ボードを買うためのお小遣いが不足するなら、庭の芝刈りでバイトをしよう。そんな考えは至極まともだが、そのための彼の営業活動はどこかへん・・・？しかし、ある日、大きなお屋敷にたくさんの犬たちと共に一人で住む中年女性ヘレン（エッシー・デイヴィス）に出会うと・・・。

本作のテーマにした、“オーストラリアの観光地で起こった史上最悪の悲劇”は実話だが、スクリーン上では大金持ちの女性ヘレンが、マーティンに対して車を与え、金を与え、家を与え、そして自由を与えていったからアレ・・・。これは一体なぜ？これも実話・・・？もちろん、事態のそんな急展開にマーティンの両親はビックリだが、結果的にマーティンとヘレンとの出会いの是非は・・・？

■□■銃社会の問題点が赤裸々に！■□■

銃社会アメリカの問題点はいろいろな映画で描かれているが、オーストラリアでも1996年当時、銃を買うのがこんなに自由だったことにビックリ！サーフィン・ボード欲しさにバイトをするマーティンはまだ可愛かったが、“ある事情”によって、あり余る大金を得たマーティンが銃に興味を持ちはじめ、次々と買い求めていくと、これは大変。一体この若者は何を考えているの？そして、何をしでかすの？

大事件の発生が、時々刻々と迫っていることは、マーティンの目つきや行動で明らかだが、それに対応する社会は？コトの是非は別として、本作でマーティン役を演じたケイレブ・ランドリー・ジョーンズのカンヌ国際映画祭での最優秀男優賞受賞の怪演には納得！

2022（令和4）年3月29日記